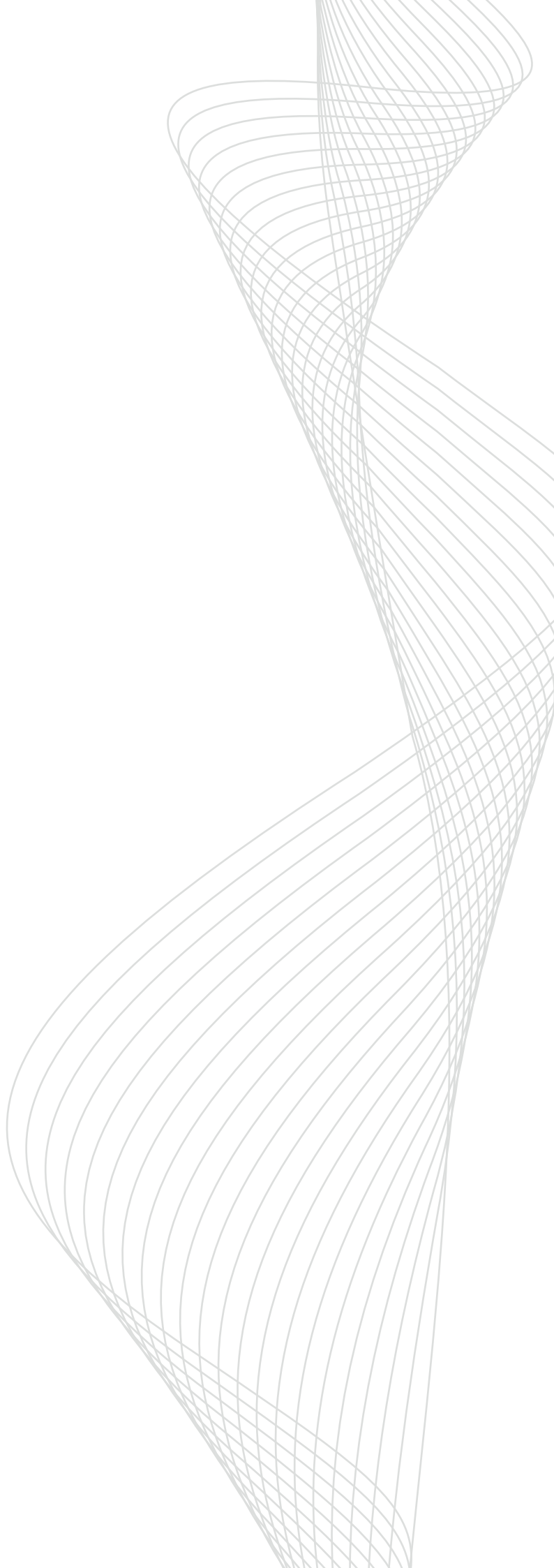




口座開設における 確認事項（個人用）



私は貴社と FX(外国為替証拠金取引)を含む CFD 取引を行うにあたり、以下に記載された内容を十分に理解したうえで、私自身の判断と責任において店頭デリバティブ取引およびオプション CFD 取引を行うことに同意します。

<p>(1) 弊社の提供する FX を含む CFD 取引においては少額の維持証拠金額で大きな金額の取引が可能である一方、元本や利益が保証されるものではなく、お預りする証拠金を上回る損失が発生する可能性があることをご理解いただいていますか？</p>	<input type="checkbox"/> 理解した
<p>弊社の提供する FX を含む CFD 取引においては少額の維持証拠金額で大きな金額の取引が可能となっています。維持証拠金額と総取引金額の比率を『レバレッジ』といいます。例えば、USD/JPY(米ドル/円)の取引レートが1ドル=100円の時に10,000ドルを取引する場合、外貨預金では100万円(100円×10,000ドル)の資金が必要となります(レバレッジ1倍)。同じ10,000ドルの取引でも、弊社の外国為替証拠金取引ではレバレッジ25倍の設定であり、40,000円(100万円÷25)という少ない維持証拠金額で取引が可能となります。また100万円の資金を運用する場合、外貨預金では最大10,000ドルの取引となりますが、レバレッジ25倍の設定の場合、25万ドル(2,500万円)の取引が可能となります。よって、取引レートの変動によっては多額の利益を得ることもありますが、お預りする証拠金は元本が保証されておらず、短期間のうちに多額の損失を被る可能性があり、お預りしている証拠金の額を上回る損失が出る可能性もあることを十分ご注意ください。</p>	
<p>(2) 弊社の取引システム（以下、取引プラットフォームとします）では未決オーダーに対しても維持証拠金額が発生することをご理解いただいていますか？</p>	<input type="checkbox"/> 理解した
<p>取引プラットフォームでは保有しているポジションだけではなく、約定していない新規の未決オーダーに対しても維持証拠金額が発生します。そのため、お預りしている証拠金を超える未決オーダーの発注はできません。</p>	
<p>(3) 「証拠金有効残高」が「維持証拠金額」を大幅に下回った場合には、未決オーダーが取り消され、さらにお持ちのポジションが強制的に清算されるという「強制ロスカット(強制決済)」機能について、ご理解いただいていますか？</p>	<input type="checkbox"/> 理解した
<p>弊社では損失の拡大を未然に防ぐために、お客様ご自身で保有ポジションに付加していただく「ストップ注文」とは別に、「強制ロスカット(強制決済)」を採用しています。強制ロスカットは、①証拠金有効残高(=証拠金残高+未実現損益額)が維持証拠金額の75%(=証拠金有効残高÷維持証拠金額)に達し、あるいは下回った時点で執行されるものと、②毎営業日正午(日本時間)時点において証拠金有効残高が維持証拠金額を下回っていた場合に執行されるものがあります。なお、現時点での「証拠金有効残高」と「維持証拠金額」は、取引プラットフォーム左上でご確認いただけます。</p>	
<p>※取引プラットフォームにおける「維持証拠金率」についてのご注意 ・取引プラットフォームに表示される「維持証拠金率」は「維持証拠金額÷証拠金有効残高」で計算されており、100%までの表記となっています。 ・「維持証拠金率」が100%と表示されている場合、証拠金有効残高が維持証拠金額を下回っており強制ロスカットが執行される可能性が高いため、証拠金およびポジション管理には十分ご注意ください。</p>	
<p>強制ロスカットはいずれも下記原則に基づき「証拠金有効残高」が「維持証拠金額」を上回るまで執行されますが、銘柄、通貨ペアによっては取引できない時間帯があるため、該当するポジションではなく、決済できる古いポジションから強制決済されることがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 未決オーダー発注日時の古い順に取り消します。 2. ストップ注文が付加されていない保有ポジションを保有日時の古い順に強制決済します。 3. ストップ注文が付加されている保有ポジションを保有日時の古い順に強制決済します。 4. バイナリーオプション取引、リスク限定オプション取引の保有ポジションを保有日時の古い順に強制決済します。 <p>注1. 両建て(ヘッジ)ポジションがある場合のルールは通常時と異なります。保有日時が一番古いポジションが両建てとなっている場合、そのロット数にかかわらず、当該売り/買い両ポジションすべてが強制的に清算され、その後、次に古いポジションが強制的に清算されることがあります。 注2. 相場急変時においては、強制ロスカットの順番が上記と異なる場合があります。 注3. 強制ロスカットが執行される順番をお客様が選択することはできません。</p>	
<p>(4) 成り行き注文、ストップ注文、および強制ロスカットの執行に伴う決済注文には、注文執行時の取引レートと約定レートとの間に乖離(スリッページ)が発生する場合がございますことをご理解いただいていますか？</p>	<input type="checkbox"/> 理解した
<p>強制ロスカットおよびストップ注文は、あらかじめ設定された条件に達した時点で成り行き注文を出す機能です。発注された成り行き注文が約定されるまでの間に取引レートが大きく変動した際には、お客様に不利なレートで成り行き注文が約定する場合があります、この乖離を「スリッページ」といいます。大きな「スリッページ」が発生しやすいのは、①各種経済指標の発表前後、②市場に大きな影響を与える事象などが発生し取引レートに急激な変動が生じた場合、③取引時間が24時間ではない銘柄において取引開始の価格が取引終了時の価格から大きく乖離して始まる場合、④休日前の終値から休日明けの始値が大きく乖離して始まる場合等です。強制ロスカットやストップ注文の執行時にスリッページが発生した場合、スリッページが発生しない場合に比べて損失額が拡大します。</p>	
<p>(5) 強制ロスカットが執行される際に大きなスリッページが発生した場合には、お預りしている証拠金額以上の損失が出る可能性があり、その場合の不足額については、直ちにご入金いただかなければならないことをご理解いただいていますか？</p>	<input type="checkbox"/> 理解した
<p>強制ロスカットは上記(3)の通り2種類あり、①「証拠金有効残高」が「維持証拠金額」の75%に達し、あるいは下回った時点(常時)と、②「証拠金有効残高」が「維持証拠金額」の100%を下回った時点(日本時間正午)で、「証拠金有効残高」が「維持証拠金額」を上回るまで執行されます。よって、値動きの小さい平常時であれば、維持証拠金額に対して①であれば75%程度、②であれば100%程度の金額が、すべてのポジションが清算されても証拠金残高としてお客様の口座に残る仕組みになっています。しかし、急激な値動きが発生している状況では、「強制ロスカット」の執行時点の取引レートからお客様に不利な方向に大きくかけ離れたレートで注文が約定する(スリッページが発生する)恐れがあり、結果としてお預りしている証拠金額以上の損失が発生する恐れがあります。その場合は、発生後直ちに証拠金の不足分をご入金いただくこととなります。なお、理論的には強制ロスカットだけでなく、ストップ注文においてもお預りしている証拠金額以上の損失が発生する恐れがあります。</p>	
<p>(6) 弊社が提示する「スプレッド(売値と買値の差)」は、市場環境によって変動することをご理解いただいていますか？</p>	<input type="checkbox"/> 理解した

<p>スプレッドも取引レートと同じく、市場環境に応じて変動します。株価指数 CFD 取引及び株価指数先物 CFD 取引の場合、原資産となる株価指数及び株価指数先物が取引されていない時間帯にスプレッドは拡大します。株式 CFD 取引の場合、スプレッドは原資産となる株式の取引所における売気配値、買気配値を原則としてそのまま提示します。そのためスプレッドは一定しません。FXについてもスプレッドは変動する可能性があります。特に、市場に大きな影響を与える、天変地異、戦争、テロまたは、重要な国際会議やイベントの開催、加えて経済指標発表時には大きな相場変動があることも考えられます。また、週末や週初、海外の休日(クリスマスなど)は、為替市場の流動性が低い状況が発生します。このような市場下においてもスプレッドが拡大することがあります。スプレッドが拡大することによって証拠金有効残高が減少し、強制ロスカット(上記(3)参照)が執行される場合もありますのでご注意ください。</p>	<p>(7) 取引プラットフォームでは、注文時に「両建て(ヘッジ)」項目にチェックを入れることで、同一通貨ペア・銘柄(先物の場合は同限月)において買いポジションと売りポジションを同時に保有する「両建て取引」を行うことができますが、その操作方法についてご理解いただいていますか？また「両建て取引」は経済的合理性を欠く恐れがあることから、積極的にお勧めする取引ではないことをご理解いただいていますか？</p>	<input type="checkbox"/> 理解した
<p>弊社では売り及び買い両方のポジションを保有する「両建て取引」を行うことができます。ただし、両建ては下記のようなデメリットがあり、経済的合理性を欠く恐れがありますので、積極的にお勧めする取引ではありません。</p> <p>(1) 売りポジション、買いポジションに対するスワップポイント/ファンディングコストには差があるために合計すると必ずマイナスとなること。 (2) 売値と買値には差があるため、スプレッドの差を二重に負担する必要があること。 (3) 株式 CFD 取引の場合、取引手数料を二重に負担する必要があること。 (4) 売り及び買い両方のポジションを同一数量保有した状態であっても、以下の理由により証拠金有効残高が変動すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保有ポジションの未実現損益の評価にはスプレッドが反映された取引レートが使用されるため、保有銘柄のスプレッドが拡大した場合、保有ポジションの未実現損益が悪化し、証拠金有効残高が減少するため。 ・口座通貨以外の通貨建て銘柄を両建てしている場合、当該通貨における取引レートの変動等の理由により、保有ポジションの未実現損益が悪化し、証拠金有効残高が減少する場合があります。 	<p>(8) 取引プラットフォームで取引可能なバイナリーオプション取引やリスク限定オプション取引に関する、価格変動や取引条件等の商品性、リスクは弊社取扱の FX を含む他の CFD 取引とは異なります。弊社の重要事項説明書の附則に記載されている「オプション CFD 取引についての商品説明」を熟読し、ご理解いただいていますか？</p>	<input type="checkbox"/> 理解した
<p>バイナリーオプション取引やリスク限定オプション取引(以下、オプション CFD 取引といいます)はすべての銘柄に取引最終期限が設定されており、取引最終期限が近づくと価格変動性が高まることのある等、価格変動や取引条件が弊社で取り扱っている FX を含む他の CFD 取引とは異なります。このようなオプション CFD 取引の商品性について、重要事項説明書の附則「バイナリーオプション取引についての商品説明」「オプション CFD 取引についての商品説明」にまとめております。こちらを必ず熟読し、ご理解ください。</p>	<p>(9) FXにおいては、保有する通貨ペアの金利状況によって、スワップポイントの受け払いが発生することをご理解いただいていますか？ また、スワップポイントは原市場の休場日等の影響を受け、ロールオーバーしても受け払いが行われなかったり、複数日分の受け払いがまとめて行われることがあることをご理解いただいていますか？</p>	<input type="checkbox"/> 理解した
<p>FXは2種類の通貨の売り買いを同時に行う取引であり、日本時間午前7時(ロンドン夏時間中においては午前6時)をまたいでポジションを保有した場合、保有ポジションに対して「スワップポイント」(各通貨ペアの金利差分)の受け払いが行われます。「金利の高い通貨の買い/安い通貨の売り」のポジションを保有する場合、原則としてお客様はスワップポイントを受け取り、反対に「金利の安い通貨の買い/高い通貨の売り」の場合、スワップポイントを支払わなければなりません。しかしながら、以下の場合においては「金利の高い通貨の買い/安い通貨の売り」のポジションを保有している場合においても、スワップポイントの支払いが発生する場合がありますのでご注意ください。なお、スワップポイントの支払いが発生することにより、強制ロスカットが執行される可能性もあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スワップポイントは各国の市場金利等によって弊社にて日々決定されるため、ポジションを保有した時点では「受け取り」であっても、その後の市場金利の変動により、受取額が減少したりあるいは「支払い」へと転ずる場合があります。 2. 流動性の低い通貨ペアの場合、市場金利の高低にかかわらず、売り、買いともにスワップポイントが支払いとなることがあります。 <p>スワップポイントは受け渡し日を先に延ばす取引に伴って発生する金利差の調整です。原市場の休場日には受け渡しは行われなため、スワップポイントの受け払いがすでに前営業日に行われている場合があります。また原市場の休場日等の状況によっては複数日分のスワップポイントの受け払いが発生する場合があります。</p>	<p>(10) 取引プラットフォームで提供している銘柄は、原資産において発生したストップ高、ストップ安による取引の中断や流動性の低下、上場廃止、当局の規制などによって、売買が一時的に行うことができなくなったり、強制的に反対売買を行い、取引の停止が起こりうることをご理解いただいていますか？</p>	<input type="checkbox"/> 理解した
<p>弊社の提供する CFD 取引は一部銘柄を除き、一般的な FX とは異なり、24 時間お取引いただくことはできません。また弊社取扱銘柄の原資産が取引所等においてストップ高やストップ安、サーキットブレーカーなどによって取引が一時的に停止されている場合、取引プラットフォームでも取引いただけない状態になることがあります。株式 CFD 取引の場合は、原資産となる株式が上場廃止となった際には取引プラットフォームでも強制的にポジションの反対売買を行い、取引が停止されることがあります。また FX を含むすべての CFD 取引において、原資産となる銘柄の流動性が急激に低下した場合や取引が規制された場合など、一時的もしくは恒久的に売買が行えないことがあります。さらに株式の空売りが貸株規制や流通株式の不足によって難しい状況の場合や、空売り規制などを設けられた場合、保有ポジションの決済は可能であっても、新規の売り建てが行えなくなることがあります。</p>	<p>(11) 弊社の提供する FX を含む CFD 取引は相対取引であり、取引プラットフォーム上で提示される価格は他の情報(取引所の価格や他社の提示している為替レート、テレビのニュースなど)とは一致しないことをご理解いただいていますか？</p>	<input type="checkbox"/> 理解した
<p>弊社の FX を含む CFD 取引は、弊社とお客様、1対1の関係で取引が行われる相対取引です。取引に当たり弊社からお客様へ提示する価格は、現時刻に近接した原資産の価格を基準とし、市場動向等を勘案して弊社が独自に決定します。特に株価指数 CFD 取引においては取引所の公表する原資産となる株価指数の値動きとほぼ一致はしますが、先物市場などの動きを反映して異なる価格が提示されることがあります。よって、お客様が知りうる価格と弊社が提示する価格が必ず一致するとは限りません。</p>	<p>(12) 商品直物 CFD 取引、株価指数 CFD 取引及び株式 CFD 取引においては、保有する銘柄に適用される金利水準によって、ファンディングコストの受け払いが発生することをご理解いただいていますか？ また、ファンディングコストは原市場の休場日等の影響を受け、ロールオーバーしても受け払いが行われなかったり、複数日分の受け払いがまとめて行われることがあることをご理解いただいていますか？</p>	<input type="checkbox"/> 理解した
<p>商品直物 CFD 取引、株価指数 CFD 取引及び株式 CFD 取引では、日本時間午前7時(ロンドン夏時間中においては午前6時)をまたいでポジションを保有した場合、保有ポジションに対して「ファンディングコスト(資金調達コスト)」の受け払いが発生します。ファンディングコストは基準通貨の金利に対して、買いの場合は一定幅</p>		

の金利を上乗せし、売りの場合は一定幅の金利を差し引いた水準の1日分の金利が受け払いされます。そのため、原則として、買いポジションに対しては支払い、売りポジションに対しては受け取りとなります。しかしながら、以下の場合においては売りポジションを保有している場合においても、ファンディングコストの支払いが発生する場合がありますのでご注意ください。なお、ファンディングコストの支払いが発生することにより、強制ロスカットが執行される可能性もあります。

1. ファンディングコストは各国の市場金利等によって弊社にて日々決定されるため、ポジションを保有した時点では「受け取り」であっても、その後の市場金利の変動により、受取額が減少したりあるいは「支払い」へと転ずる場合があります。
2. 保有ポジションの原資産の流動性が低い場合、市場金利の高低にかかわらず、売り、買いともファンディングコストが支払いとなることがあります。

ファンディングコストは受け渡し日を先に延ばす取引に伴って発生する金利差の調整です。原市場の休場日等には受け渡しは行われなため、受け払いが休日の前営業日に行われる場合があります。また原市場の休場日等の状況によっては複数日分のファンディングコストの受け払いがまとめて発生する場合があります。

(13) 株式 CFD 取引及び株価指数 CFD 取引においては、原則として買いポジションでは受け取り、売りポジションでは支払いとなる「配当金相当額」が発生することをご理解いただいていますか？ 理解した

株式 CFD 取引、株価指数 CFD 取引では、原資産となる株式、株価指数の構成銘柄に配当金等の支払いがあった場合、保有ポジションに対して「配当金相当額」の受け払いが発生します。配当金相当額は買いポジションに対しては受け取り、売りポジションに対しては支払いとなります。配当金相当額は各国の税制に基づき決定されるため、原資産に対して支払われた配当金等の全額が受け払いされるとは限りません。

(14) 取引プラットフォームにおける維持証拠金額は、市場環境などによって事前の通知なく変更される可能性があることをご理解いただいていますか？ 理解した

取引プラットフォームでは市場の流動性が低下した場合や急変動している場合などの状況において、お客様に事前の通知なく維持証拠金率(額)の引き上げが行われることがあります。特に株式 CFD 取引では、その企業の信用力が低下した場合や急変動している場合に証拠金率(額)が大きく引き上げられることがあります。そうした場合、保有ポジション、未決オーダー等に対する維持証拠金額が増額される一方で取引レートの急変動により保有ポジションの未実現損失が拡大することにより証拠金有効残高が減少し、強制ロスカットが執行され、未決オーダーの取り消し、保有ポジションの強制決済が実施されることがあります。

(15) 取引プラットフォームでの株式 CFD 取引には取引手数料が発生することをご理解いただいていますか？ 理解した

取引プラットフォームで提供する CFD 取引のうち、株式 CFD 取引については売値と買値のスプレッドのほかに、売買の際に取引手数料が発生し、お客様の取引コストとなります。